

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所として		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童様が楽しめる活動を考え提供できている。	活動内容が固定化してしまわないようにプログラムを工夫している。	支援の中に専門的な知識を反映し、より一人一人に合った支援を提供していく。
2	児童様にとって、学校や家庭とは違う安心できる生活環境となっている。	学校での生活を終え、心身ともに疲労を感じている姿に対して、のんびりと過ごせる場所の提供を心がけています。	放課後の限られた時間の中で、子ども達の気持ちに寄り添い、子ども達にとってより良い支援ができるようにしていきたい。
3	言語聴覚士による専門的な支援を実施できている。	ニーズのあるお子様へ、個別の言語訓練を実施しています。	次年度は、1年生クラス、低学年クラス、高学年クラスに分かれて児童を受け入れる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子ども達が活動する環境	ホールスペースが小さいため、運動したいと思った時に十分に活動できない。	他事業所のホールを活用する等して、十分に運動できる時間を設ける必要がある。
2	チームワーク、専門的な知識	支援者一人ひとりの児童に向ける想いにばらつきがある。児童の為に思って考えているが、チームで行えていないところもある。また、発達支援に必要な知識が不足していると感じる。	チームワークの構築に向けた取り組み。各研修への参加を促す。
3	保護者支援(保護者様同士の交流する機会)	保護者様のニーズがどの程度あるのか。また、その場を担当できる支援員が少ない事。	今年度は、親子通所で交流できる機会を設けたが、その場を進行するスタッフの課題や交流会の内容を見直す必要がある。